

平成 27 年度臨時理事会議事録

開催日:平成 27 年 8 月 11 日 14:00~17:20

場 所:日本電子株式会社 東京事務所

出席者:太田壮一、大塚宜寿、門上希和夫、柴田康行、鈴木規之、清家伸康、高田秀重、中野武、
尹順子、吉田寧子 (理事 10 名)(敬称略)、原田修一 (監事 1 名)(敬称略)

1. (議長選出)

定款 39 条「理事会の議長は会長がこれにあたる」に基づき会長柴田康行氏が議長を務める。司会進行は業務執行理事の清家伸康氏が務める。

2. (定足数について)

定款 40 条により全理事数(20 名)の 2 分の 1 以上(10 名)とあり、本日の出席理事は 10 名、また監事 1 名も出席しており理事会は成立する。

3. (議事録について)

議事録は事務局が記録、作成し第 44 条により議長及び出席した代表理事並びに監事の記名押印をし、本学会 HP へ掲載する。

(本日の審議事項)

1. 平成 27、28 年度の活動方針について

1-1 部会活動の活性化の件

平成 27 年度第 1 回理事会で、部会活動費の予算化と実施は来年度から行うことになったが、具体的に何が出来るか。今年度は何が出来るか。

次のような意見があった。

- ▶ 他学会では地方の支部毎に勉強会や技術研修会などが開催されて、開催報告が義務づけられている。
- ▶ 活動費を出せば活性化するのではないか。
- ▶ 部会に一律に予算を与えるのではなく、活動する部会に申請してもらって支払うのが良い。
- ▶ 地区担当理事より、各地区の正幹事と連絡をとり、関東地区、九州地区から「勉強会をしたい。意見交換会を定期的で開催したい。その地区在住の会員情報がほしい。活動費を補助してほしい。」との意見がでたと報告があった。
- ▶ 現在、地区部会は 6 つに分かれているが、都道府県の明確な振り分けが必要。
- ▶ 講演会という形ではなく、小さな懇談会や勉強会があった方が良い。
- ▶ 支部(地区部会)の活性化は学会の活性化につながる。
- ▶ メーカーなどの企業とコラボすることで会場費などを節約できる。企業は宣伝できるので喜んで企画してくれることも多い。
- ▶ 調査研究部会の活動としては、手始めに機関誌「環境化学」での特集号はどうか。すでに WET 関連で特集号がでたが、今後も農薬関連でも計画がある。
- ▶ 若い研究者をどんどん活用して、楽しんでいただきたい。

結論:総会で承認された平成 27 年度の予算には部会活動費の項目はないので、今年度に関しては収支差額の 20 万円を目安に部会活動費にあてる。現時点で支払いは会場費や講演謝礼まで

として交通費はむずかしいと判断。各部会担当理事は正幹事に活動のアイデアや情報を出して頂くよう会長から指示があった。

地区部会の都道府県の明確な振り分けについては次回の理事会で検討する。

来年の予算では活動費をもうけるが、支払い基準や金額(ガイドライン)については次回の幹事会、理事会で検討する必要がある。

1-2 講演会開催の件

現在、秋にWET関連での講演会の話しがあるが、未定。

特に集客できる講演会について議論され、次のような意見が出た。

- ▶ そもそも講演会のターゲットはだれか？ 会員や研究者または一般？
- ▶ 事務局から「環境化学学会の年 2 回の講演会出席を毎年予算化している地方の研究所から、来年の講演会の予定について問い合わせがある」と報告があった。
- ▶ これまでの講演会は、新たな規制や分析法の紹介の際に企画され、収益もあった。
- ▶ 学会のアウトリーチとしての講演会も必要ではないか。
- ▶ 今後の化学物質問題がどのような方向にむかっているのか勉強会的な講演会はどうか。
- ▶ ヨーロッパなど、世界の情報を勉強する機会にしてはどうか。
- ▶ 環境ホルモンの総括のような講演会も企画できるのではないか。

結論：本日は講演会企画部会の高管理事不在のため具体的な決定はなかったが、9月の柴田会長のドイツ訪問時にヨーロッパの情報をあわせて収集し、これらも含め後日あらためて講演会テーマ等を検討。

1-3 25周年記念行事の件

平成 27 年度幹事会で、前会長であった森田理事が第 25 周年記念行事のための実行委員長を指名することになっていたが、森田理事欠席のため、この件については保留とした。企画については以下のような意見が出た。

- ▶ 発足から 25 年を振り返り、記録する記念誌を発行してはどうか。
- ▶ 記念誌の発行については清家理事が担当できると申し出があった。
- ▶ 第 25 周年記念講演会を開催する場合は、これまでの歴史よりも日本環境化学学会の次のステージが見えるような前向きな講演会にする方がよい。
- ▶ 25 年間の PCB、農薬、ダイオキシン、環境ホルモンなどの総括を他学会からも招待して講演会をしてはどうか。

結論：記念誌は発行し、担当は清家理事とする。詳細は次の理事会でつめる。記念講演会と合わせでの発行。第 25 回討論会で学会 25 周年の記念イベントを合わせて行うことは、スケジュール的にかなりタイトになることが考えられるので、討論会とは別で秋頃に行うのがよい。第 25 回討論会実行委員会で第 25 回討論会をお祝いムードにすることに問題はない。

1-4 国際対応の件

1-4-1 PCB workshop 2016

PCB ワークショップ 2016 の実行委員長でもある中野理事から PCB ワークショップの概要と収支計画について説明があった。日本環境化学学会への協力要請があった。

PCB ワークショップの開催日は 2016 年 10 月 9 日～13 日であるが実質は中 3 日である。

会場は神戸コンベンションセンター。メインテーマは「PCB 分解処理」である。

説明に対し、次のような意見があった。

- ▶ 日本環境化学会が「主催になるか、共催になるか」は慎重に検討する必要がある。
- ▶ 支援については前回の理事会で承認されているが、金額については確定されていない。
- ▶ 学会の負担が大きいということは、学会員の会費を使うということなので、会員への説明責任がある。

結論：日本環境化学会は共催とし、国際交流費支出からの一定額の支援を行うが、事務局業務などについては独立して行って頂く。

1-4-2 日韓シンポジウム

担当の柴田会長から、状況説明。これまで 2 回ほど日韓の共同シンポジウムを開催し、ここ 2, 3 年はなかったが、昨年、韓国側から再開の要望があった。その際に、あまり大きなことはせず、テーマをしぼって開催してはどうかと提案した。その後具体的にはなっていないが、日本では来年 PCB ワークショップが開催されるという情報は伝えてある。

1-4-3 ダイオキシン国際会議 2019

今月末のブラジルでの会議次第で、現段階では何も決まっていないが、決まれば、2007 年と同程度の負担が予想されるだろうとの会長からの説明があった。

2. 慶弔規程について

準備された「慶弔規程」案については一部修正のうえ平成 27 年 8 月 11 日付けで制定施行が承認された。今後のために、事務局は事例集や覚え書きを作成するようとの指示があった。

3. 名誉会長規程について

複数の会員から森田前会長を名誉会長に推薦する意見が寄せられた。名誉会員については定款内に定められているが、名誉会長については何も規程がないので、理事会にて規程をもうけることが検討され、提出された「名誉会長規程(案)」は承認された。

4. 会員拡大について

事務局に会員から寄せられた、会員拡大のための下記の提案について事務局から報告があった。

- ①紹介制度：会員の紹介で新入会があった場合、紹介した会員の次年度の年会費は半額とする。
- ②役員のメール署名を活用して宣伝する。
- ③賛助会員のホームページに当会のバナーを貼って頂く。
- ④討論会参加者の非会員への勧誘として、事前登録時に入会して頂いた場合、初年度会費は 5,000 円にして事前登録費 13,000 円で参加も入会もできるようにする。また、学生については学生会員の参加費は無料として、非学生会員の参加費を値上げする。

これに対して次のような意見があった。

- ▶ 学会のバナーは賛助会員に限らず、研究室や個人のホームページにも貼って頂ける。
- ▶ 討論会参加費の非会員が減ると、討論会の運営に影響がでるのではないかと？
→「年会費よりも参加費の方が経費で落とせることが多いので、影響が出るほどの入会は期待できない」と事務局より回答。

- 学生会員であるメリット(討論会参加費無料)があつて良いと思う。非会員学生の値上げも良い。
- 学生会員を増やしても卒業すれば退会するので意味がなく、事務量が増えるだけでは?
- 学生が入会すると研究室の書棚が機関誌「環境化学」であふれてしまう。
- 学生会員は1年更新つまり次年度の年会費が振り込まれなければ、即退会扱いにしたらどうか。

結論:提案①と④は見送り、②と③は実施となった。

5. 第26回討論会開催場所について

現時点での候補地は、沖縄と静岡である。以前より検討されている沖縄開催については、現地の会員が検討中であり、その結論は1月であること、静岡については静岡県立大学の坂田先生が実行委員長に立候補してくださっていると事務局より説明があった。

6. 高校環境化学賞「松居記念賞」について

第10回まで行われてきた「松居記念賞」の松居基金の残額は0円となり、今後は学会の予算で継続することは決まっているが、「松居記念賞」という冠をどうするかご検討した結果、理事会としては引き続き「松居記念賞」として行うことが決定された。尚、このことに関してはご遺族のご意向も確認し、最終的な判断とする。

7. その他

7-1 初代会長森田昌敏氏の名誉会長就任の要望

当会の設立とこれまでの発展に多大の貢献をされた、前会長森田昌敏氏を「名誉会長」に推薦する多くの会員の要望をうけ、本理事会は満場一致で森田昌敏氏の名誉会長就任を要請することに決議した。

7-2 一般社団法人セタックジャパンからの「第1回 SETAC セミナーの案内」の取り扱いについて
SETAC-Jはすでに法人化された学会となっており、あくまでも他学会として扱うべきであると判断された。案内の取り扱いについては、当会ホームページでは「他学会からのお知らせ」欄での掲載とし、メールニュースで全会員に案内することはしない。当会の幹事会組織である「SETAC 部会」についても今後目的や意義の見直しを行う。

7-3 高田秀重氏の受賞報告

「第8回(平成27年)海洋立国推進に関する特別な功績」の科学技術部門で東京農工大学の高田秀重氏が受賞されたとの報告があった。この件については当会ホームページのお知らせに掲載することが決定した。

署名人 議長 柴田 康行



監事 原田 修一

